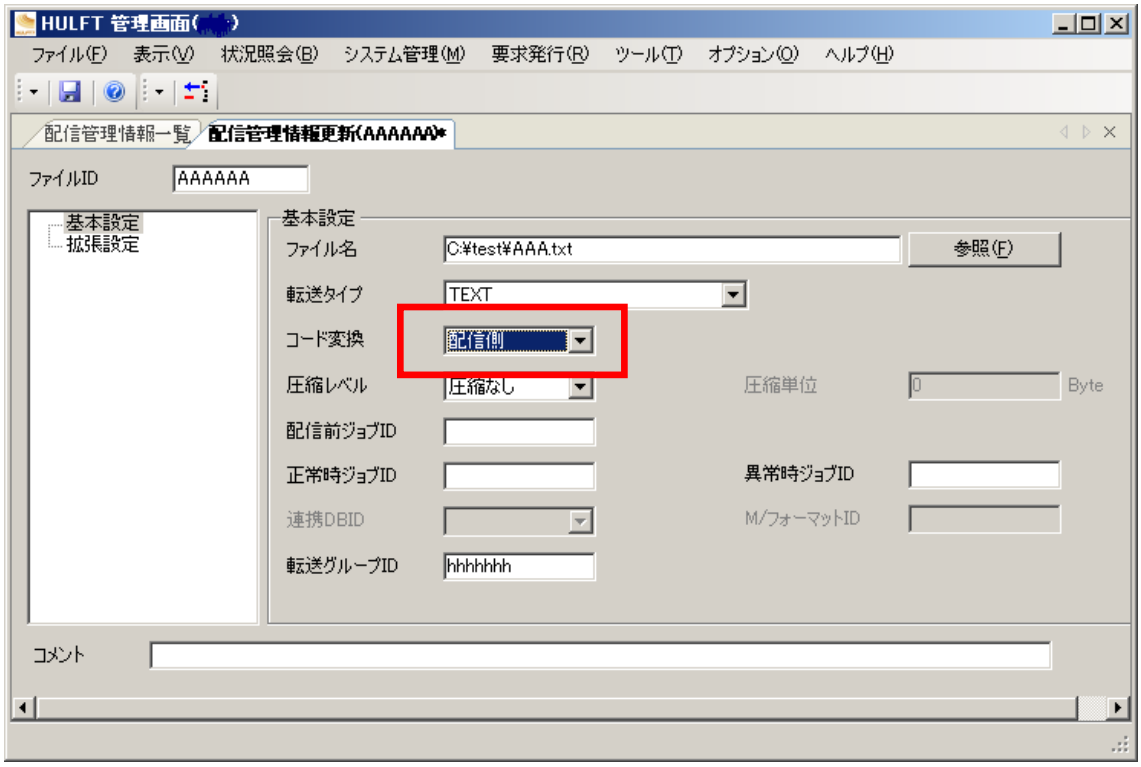
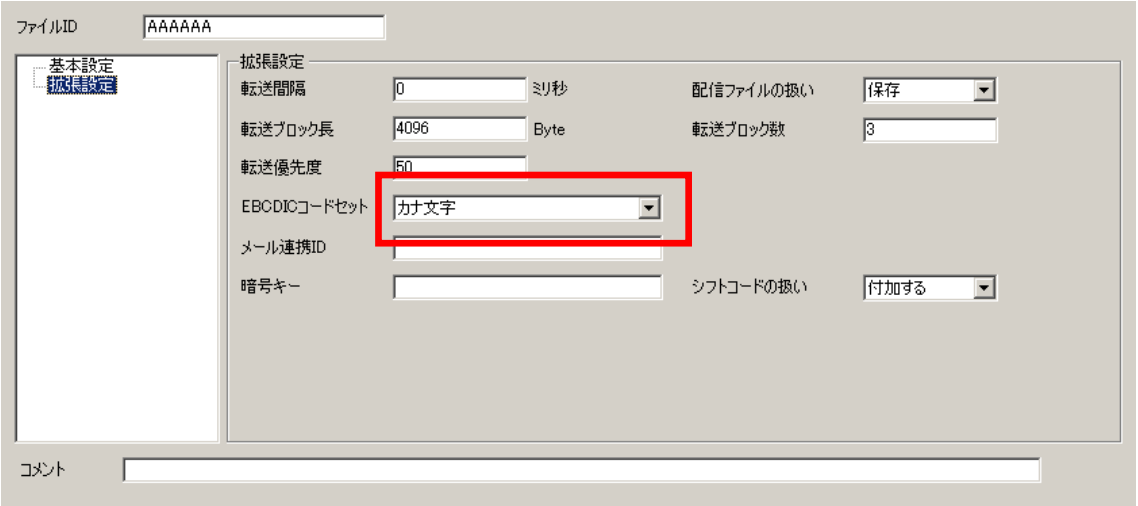
本資料では、配信側が「HULFT7　Windows」、集信側が「HULFT7　MF(z/OS)」の環境で、配信側から集信側にテキストデータを配信する場合、配信側と集信側の EBCDIC コードセットのどちらが有効になるかの判定方法を説明します。

1．配信管理情報(Windows 側)



配信側でコード変換を実施する場合の基本設定タブの定義例です。

[コード変換は]、「配信側」です。



配信管理情報の拡張設定タブの定義例です。

EBCDIC コードセットに「カナ文字」(EBCDIC カナ文字)を指定しています。

Copyright 2012 ESECTOR, Ltd.
All Rights Reserved

２．集信管理情報(z/OS 側)

```
                    <<  集信管理情報更新（拡張） >>    SAVE  コマンドを入力
コマンド    ==>
                                                      コマンド B: 基本画面切替
ファイルＩＤ：   HHHHHHHH
汎用機ＤＳＮ     :   AAAAAAAA.BBBBBBBB.CCCCCCCC

UNIT             :
印刷文字         :                    (A:ANSI M: 機械 )
EBCDIC コードセット    : B        (A:KN B:AL C:AC D:AP E:LOW
                                     F:EX G:NE V:U1 W:U2 X:U3)
ワークボリューム :
順序番号         :
暗号化キー       :
データ検証       :          (0: しない  1: する )

コメント
```

z/OS 側の HULFT の集信管理情報の拡張画面の定義例です。
ファイル ID は、配信側のファイル ID と同じ設定です。
汎用機 DSN は、z/OS 側の集信データセット名を指定します。

EBCDIC コードセットは、今回の例は、「**B**」(EBCDIC 英小文字)となっています。
今回は、配信側でコード変換を行うため、コード変換に関係ない設定になります。

３．まとめ
配信管理情報のコード変換が「配信側」の場合は、配信側の EBCDIC コードセットの設定(今回の例では「カナ文字」)が有効になります。

© CEC Customer Service Ltd.